



空はどこまで続いているの

地上100キロメートルあたりから空が暗くなる

ジェット機は、地上10キロメートルぐらいの所を飛んでいます。このあたりでは、空気がかなりうすくなっています。しかし、このあたりから空を見ても、まだ空は青く見えます。空が青く見えるということは、空がまだ先のほうまで、続いているということになります。

地上100キロメートルあたりになると、だんだん空が暗くなってきて、昼間でも星が見えてきます。さらに、200キロメートルあたりでは、周りは真っ暗で、空気もだいぶ少なくなっています。

地上100～200キロメートルの間までが空

空気は急になくなるのではなく、少しずつなくなっていくます。地上1000キロメートルぐらいまで、ごくわずかな空気があります。

ごくわずかな空気があるので、地上1000キロメートルぐらいまでが、空だと思いかもしれませんが、空と宇宙の境は、およそ、地上100～200キロメートルの間にあると考えられます。しかし、はっきりと、ここまでが空というような線を引くことはできません。
(監修・国司 真)

